



## ノロウイルスについて

感染制御部

今回は、毎年冬場になると話題になるノロウイルス（図1）のお話です。

ノロウイルスは、以前は“小型球系ウイルス”や“ノーウォークウイルス”などの名前と呼ばれていたウイルスで、主に冬場に、下痢や嘔吐の症状を起こします。汚染された食品の摂取により食中毒が起ったり、手指を介して人から人への感染も起こります（図2）。

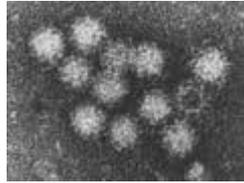
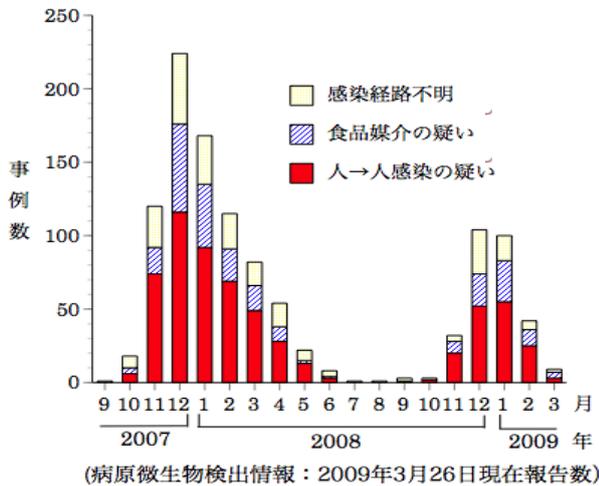


図1.ノロウイルス

図2. 推定感染経路別ノロウイルス感染集団発生数の月別推移、2007年9月～2009年3月



(病原微生物検出情報：2009年3月26日現在報告数)

IASR  
Infectious Agents Surveillance Report

テレビや新聞でもノロウイルスの流行の報道がされています。ノロウイルスは冬場に多くなりますが、今年も増加し始めています（図3）。

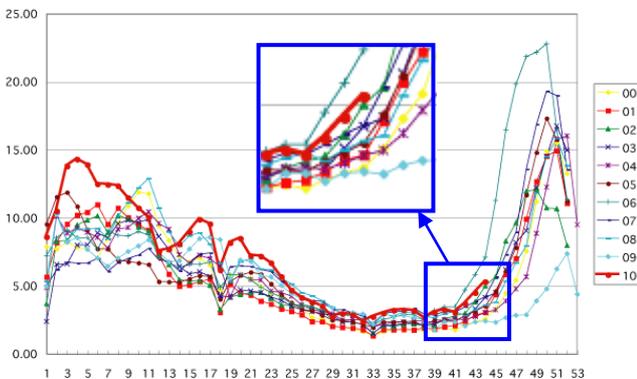


図3.ノロウイルスの週別検出数

(出典：国立感染症研究所感染症情報センター)

### <診断と治療>

診断にはやや特殊な遺伝子の検査が必要なため、通常の医療機関や施設でノロウイルスを特定することは困難です。そのため、感染症法に定め

る定点報告の際には、ノロウイルスとしてではなく、感染性胃腸炎として報告します。この報告は毎月、全国にある約3,000の小児科定点医療施設によって行われます。感染が疑われる患者の糞便を用いる簡易検査キットが市販されていますが、感度が60%弱と低いことが弱点です。この検査は、保険には収載されていません。

罹患しても、多くは軽症ですみますが、高齢者や乳児では注意が必要です。ノロウイルスそのものに対する薬はないので、重症例では、水分や栄養の適切な補給が最も重要な治療となります。

### <感染対策>

感染を上げないためには、手指衛生が重要となります。アルコール消毒は無効のため、こまめに手を洗って、物理的にウイルスを洗い流してしまうのが現実的な方法です。手に付着したウイルスが、ドアノブやベッド柵などに付着し、環境を介して感染を広げるといった可能性もあります。オムツ交換などの処置の後には、手指衛生を確実にいきましょう。

また、ノロウイルスは感染力が強く、ウイルスに汚染された食品を直接口にする以外にも、ウイルスを含んだ便や吐物が乾燥し、巻き上げられたものを吸い込むことでも、感染する可能性があります。実際に胃腸炎の症状が出ると、長ければ症状が出てから3週間程度、便中にウイルスの排出が続くとも言われています。

吐物や糞便の処理の際には、エプロン（ガウン）・手袋に加えてマスクを着用し、汚物が飛び散らないように静かに拭き取ります。拭き取ったあとは次亜塩素酸ナトリウムで消毒します。次亜塩素酸ナトリウムは有機物により消毒効果が下がるので、汚物を拭き取ってから使用します。汚物が大量の場合は、次亜塩素酸ナトリウムを汚物にふりかけてから処理します。その場合も汚物を処理した後に必ず次亜塩素酸ナトリウムで清拭消毒が必要です。処理した後の廃棄物は、ビニール袋に密閉し、可燃性感染性廃棄物として廃棄します。また、処理後の手指衛生も忘れずに行いましょう。



ノロウイルス感染の疑いのある方がいらっしゃる場合には、感染制御部へご連絡をお願いします。